

## 取扱いの趣旨

知覚過敏処置の算定にあたっては、象牙質が知覚過敏を有する状態を示す傷病名の記載が適切であることから、「う蝕（C）」で当該処置の算定は原則として認められない。

## 支払基金が公表している取扱いの全文

【処置】 《令和3年2月22日》

### 96 知覚過敏処置③

#### ○ 取扱い

原則として、「う蝕（C）」病名で、知覚過敏処置の算定を認めない。

#### ○ 取扱いを定めた理由

知覚過敏処置は、露出した象牙質の疼痛を軽減するために行われる処置であり、算定にあたっては、象牙質が知覚過敏を有する状態を示す傷病名の記載が適切である。

## グラフの見方

検証不要(少数事例)

### 1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

知覚過敏処置を算定している目視対象レセプト1万件当たり、条件（Cに対して知覚過敏処置を算定）に該当するレセプト件数

### 2 折れ線グラフ

該当レセプトのうち、知覚過敏処置が査定・返戻となった割合

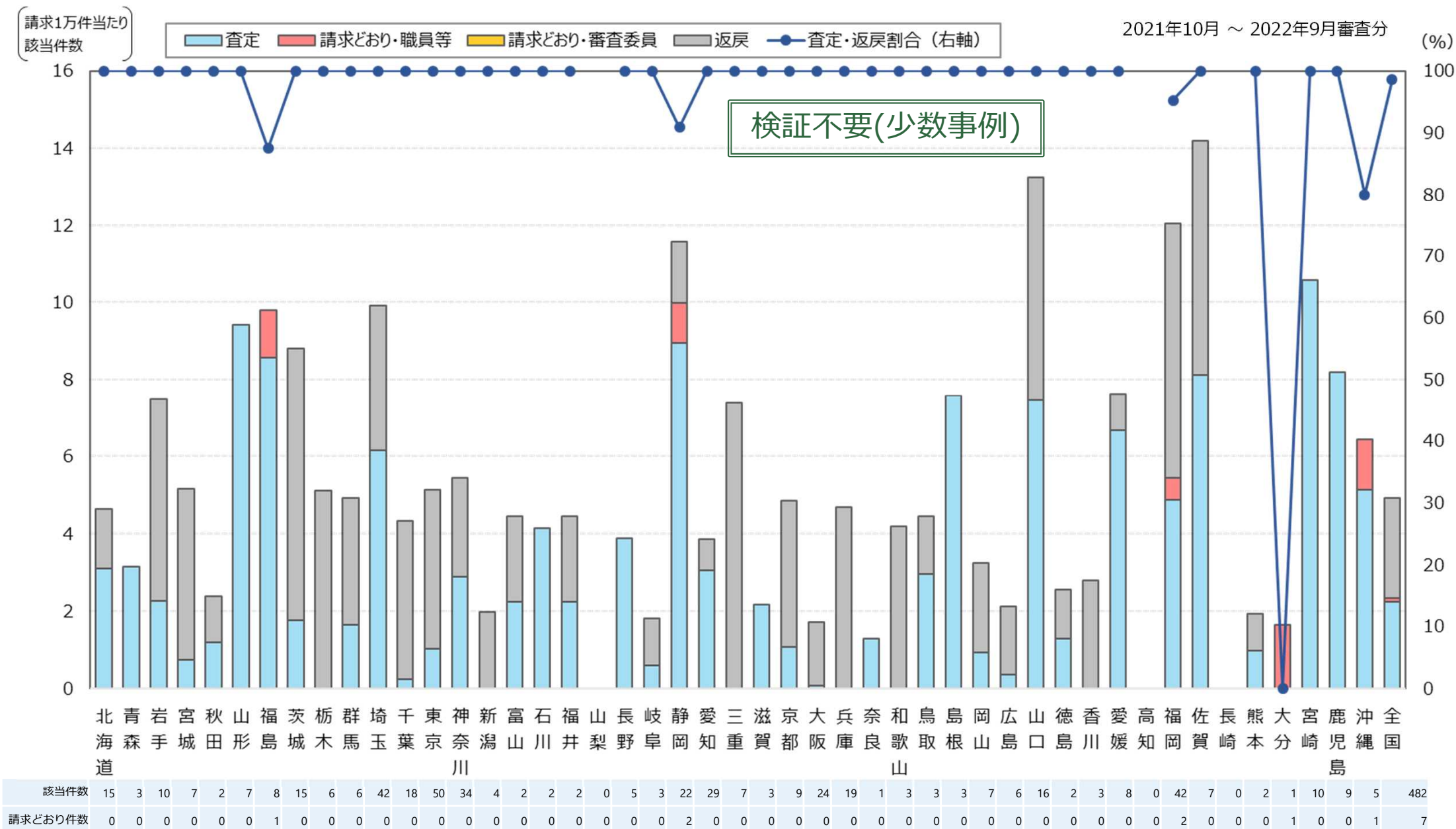
【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員等	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

## 審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 98.55%
- 検証を必要とする都道府県 0

検証観点	検証を要する都道府県	備考
査定・返戻割合が低い都道府県		査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員等		対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員		//
該当件数（全国）	Cに対して知覚過敏処置を算定	482件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	475件
検証を必要とする審査	請求どおり	7件



【該当件数】 Cに対して知覚過敏処置を算定しているレセプト件数